

# 万葉集

イメージ画集

荻野  
沙  
穂  
做

天の海に  
雲の波立ち  
月の船  
星の林に  
漕ぎ隠る見ゆ

# 桜

あしひきの

山のま照らす

花

この春雨に

散り行かむかも

我を待つと

君が濡れけむ

あしひきの

山

のしづくに

ならましものと



ぬげたまの

夜渡る月を

留めむに

西の山端に

堰もあらぬかも

海原の

道遠みかも

月読の

光少なき

夜は更けにつつ

春日山

おして照らせる この月は

妹が庭にも  
清けくありけり



ぬばたまの 夜霧の立ちて おぼほしく  
照れる月夜の 見れば悲しき



古の人になれあれや

ささなみの

古き京を

見れば悲しき

あしひきの  
山のしづくに

妹待つと  
我立ち濡れぬ  
山のしづくに

向南山に

棚引く雲の

青雲の

星離りゆく

月を離れて



萩 朔  
沙

火

天

君が行く 道の長手を 繰り畳ね

焼き滅ぼさむ 天の火もがも



妹があたり

吾袖振らむ

木間より

出で来る月に

雲な棚引き



# 寄

の夜は

苦しきものを

いつしかと

吾が待つ月も

早も照らぬか

玉匣

みむろの山の

さなかづら

さ寝ずは遂に

ありかつましじ



采女の袖

吹き返す

飛鳥風

都を遠み

いたづらに吹く



久方の

天知らしぬる

君故に

日月も知らず

戀渡るかも



夕影に

来鳴くひびぐらし

ここたくも

日毎に聞けど

飽かぬ声かも

紅の

薄染衣

あさらかに

相見し人に

恋ふる頃かも

ぬばたまの

今夜の雪に

いざ濡れな

明けむ朝に

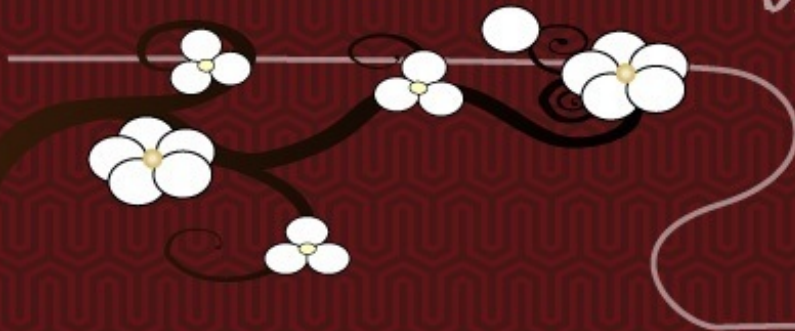
消なば惜しけむ

小治田朝臣東麻呂雪歌  
万葉集卷八 一六四六



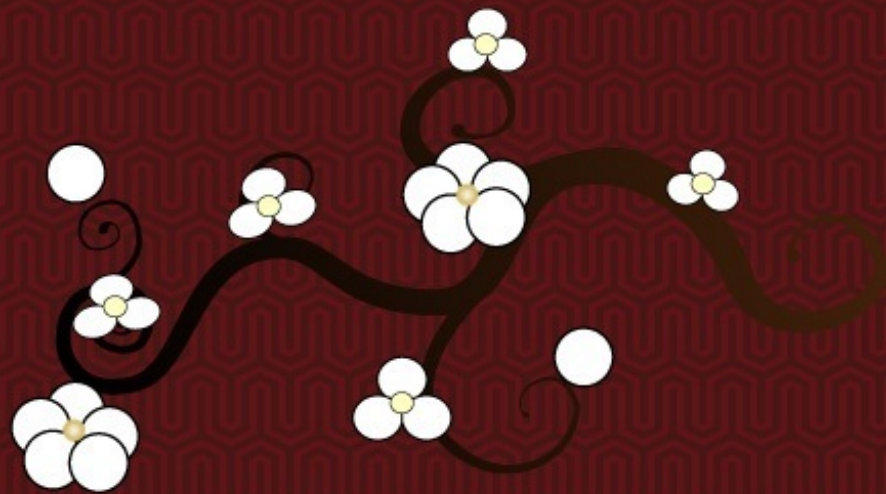
わが苑に  
梅の花散る

久方の



流れくるか毛

雨より雪の



家にあれば

笥に盛る飯を

草枕

旅にしあれば

椎の葉に盛る



今更に

寝めや我が背子

荒た夜の

一夜もおちらず

夢に見えこそ



世の常に

聞くは苦しき

呼子鳥

声懐かしき

時には成りぬ





ささなみの

因つ御神の

うらさびて

荒れたる京

見れば悲しき



橘の

花落里に

通ひなば

山時鳥

響もさむかも

このころの

曉露に

吾が屋戸の

萩の下葉は

色付きにけり

いふ言の

恐き国ぞ

紅の

色にな出でそ

思ひ死ぬとも

大伴坂上郎女





つき草の

うつろひやすく

思へかも

我が思う人の言も告げ来ぬ




万葉集卷四

五八三

大伴坂上大嬢

荻塑  
做沙



昼は咲き

夜は變ひ宿る

合歡木の花

君のみ見ぬや

戯奴さへに見よ

岩代の

浜松が枝を

引き結び

ま幸くあれば

またかへり見む

万葉集

ogisosasa

イメージ画集





## 万葉集 イメージ画集

<http://p.booklog.jp/book/45943>

著者：荻塑做沙 ogisosasa

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ogisosasa/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45943>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/45943>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社：株式会社paperboy&co.